

## CIEC 第 40 回研究会報告

テーマ Xoops portal site の構築と運用方法

日時 2003 年 12 月 6 日 (土) 13:30 ~ 17:00

会場 立命館大学琵琶湖草津キャンパス 情報語学演習室 AC11

講師 淡路 佳昌 (中部大学国際関係学部助教授)

### はじめに

去る 12 月 6 日 (土) 午後, 立命館大学琵琶湖草津キャンパス (滋賀県草津市) を会場に, CIEC 第 40 回研究会が開催された。主たるテーマは「XOOPS ポータル・サイトの構築と運用方法」で, CMC (Computer Mediated Communication) において特に豊かな経験を持つ淡路佳昌氏 (中部大学国際関係学部助教授) を講師として招き, 講演とワークショップを開催した。

北米で開発された WebCT (<http://www.webct.com>) や Blackboard (<http://www.blackboard.com>) などに代表される e-learning コースウェアの多くは, 大規模大学にとって, 毎年のサイト・ライセンス費が高額であり, それらの提供する機能も充実はしているが, 必ずしも理想的なものとは言い難い。そこで Windows 環境でも Mac 環境でも Linux 環境でもサーバさえあれば気軽に無料のポータル・サイト (サイバー・コミュニティ) を構築でき, 日本語や英語だけでなく, モジュールさえ組込めば, その他の言語でも構築できるマルチリンガルに対応した XOOPS - eXtensible Object Oriented Portal System (<http://wwwxoops.org/>) の導入について, すでに導入し積極的に活用している中部大学での実践例を紹介してもらうと同時に, 外国語教育・学習に利用する環境で導入するためのノウハウを学ぶため, ワークショップを開催した。

当日のプログラムは, CIEC 研究会担当のカンファレンス委員の一人, 筒井氏 (京都精華大学) が総合司会をし, 筆者の挨拶で始まった。前半は淡路氏の講演であったが, 「XOOPS ポータル・サイトの構築と運用方法」について, PowerPoint とハンドアウトを効率よく使い分かりやすく概説された。その後 20 分の休憩を挟んで, 後半はワークショップ・スタイルで, 具体的な環境構築と運用方法を学ぶ実習をするものであった。最後に質疑応答も活発に行われ, 上村隆一氏 (北九州市立大学) の閉会挨拶で会を終了した。毎週のように研究会が開催されている中, 参加者総数は東京や金沢などの遠方からの参加者も含め 22 名あり, かなり専門的な内容にも拘らず, 関心度の高さが伺われた。



写真 1 : 総合司会をした筒井氏と開会の挨拶と進行係をした筆者

### 講演概略

講演では、まず初めにコンテンツ・マネージメント・システム (CMS: Content Management System) のひとつであるXOOPSの基本を紹介した。環境としては、最新バージョンのhttpd (Apache)やWebでダイナミック表示を可能にするPHP、高速データベース・フリー・システムのMySQLの3つが必要であるが、フォート・モジュールなどを追加すれば、さらに充実したe-learning環境が構築できる。こういったポータル・サイト構築活性化の背景には、CGIスクリプトの淘汰、コンテンツの充実から効率管理のためのデータベース利用、コミュニティ形成機能の集約、サイト機能拡充作業の簡便化などがXOOPSの出現に大きな影響を与えているのが原因ではないかと分析された。

XOOPSの導入で何が便利かという点、(1)コンテンツをWeb上で管理すること、(2)Mail Addressで認証が可能な「組み込み認証システム」を提供できること、(3)便利なモジュールが豊富なこと、(4)コンテンツをデータベースで管理できること、(5)マルチバイト文字に対応していること、(6)無料で利用できることの6つの利点を指摘された。

XOOPS環境の構築による教育現場での活用例として、中部大学で実践してきている小学生向けの異文化理解セミナーの「きっずセミナー」や「高校生セミナー」(<http://kids.lc.chubu.ac.jp/>)、

淡路氏が個人的に収集し、公開しているジョーク集のサイト「英語で笑おう！(http://jokes.awajis.net/)」を紹介した一方、オンライン・コミュニティの構築事例として、「PowerBook News (http://www.powerbooknews.com/modules/news/)」、「安倍晋三ホームページ ( http://www2.s-abe.or.jp/modules/news/ ) 」, 原子力資料情報室 (http://cnic.jp/index.html)」も紹介した。実際には、XOOPSサイトの入り口(ログイン,メニュー・カラム,メイン・ブロック),ログイン後の画面(メイン画面,ブロック),ユーザ認証システム(新規登録,パスワード紛失,グループ管理),モジュール(代表的な標準モジュール,追加モジュール),フォーラム,投票が面インターフェイス(アイコン,リンク,引用,画像挿入,フォント,オプション),投票,リンク集,テーマ(フィルタ機能),モジュールの追加(写真集,コンテンツ管理,カレンダー・スケジュール,イベント案内・受付,WikiWeb,チャット,Hotpotoesとの連携),教育現場での活用(受講者を対象としたコミュニティ構築,掲示板を利用した課題報告・添削・その他の共同作業,お知らせニュースやスケジュール・モジュールによる授業日程管理,投票機能による簡易クイズ,チャット・モジュールによるリアルタイム対応の順で話された。また,XOOPSとキャンパス・ポータル・サイトの代表的なWebCTの比較結果を示したが,最も重要な点はコンテンツであることを強調された。さらに,JAVAスクリプトを使った言語教育用オンライン演習問題を作成できるソフトウェアのひとつとして世界的に人気のあるHotpotatoes (http://web.uvic.ca/hrd/hotpot/)での課題であった誤答分析結果の表示も今後開発していく予定であることを報告された。



写真 2 : 講演をする淡路氏

### ワークショップ概略

XOOPSを利用するには基本的なe-learning環境の構築と下ごしらえが必要であるが、Apache+PHP+MySQLが動作するサーバ、MySQLデータベースの準備、必要なファイルのダウンロード、パーミッションの設定などの作業は、本ワークショップのために淡路氏が前もって設定した状態で始まった。

作業自体は、XOOPS運用に必要な環境（実際のインストーラの起動、データベース設定、管理者設定、ログイン、システム管理メニュー、モジュールのインストール、ブロック管理、グループ管理、フォーラム設定、プライベート・フォーラムの作成、投票機能、リンク集の作成）を整備した外部サーバを使い、ここにあらかじめアップロードしてあったXOOPSパッケージをスクリプトに従ってインストールしたものに、環境の初期設定（実習用個人別設定情報の入力）を済ませ、ユーザ登録やフォーラムの開設やリンク集の構築などの基本的作業を実体験した。しかし、研究会自体の時間的な制約の関係上、残念ながら授業利用に便利な機能を提供してくれるモジュールの追加をして、XOOPS環境を拡張する方法は実習できなかった。また、他の受講者のページの訪問、共通ページのモジュールの体験も、淡路氏の指示に従って実習をした。



写真3：講演とワークショップへの参加者たち

おわりに

これまで教育現場での利用では、掲示板や投票システムなどのCGIプログラムや、メーリングリストなどの個別の仕掛けを組み合わせ、オンライン学習サイトを構築することが一般的でした。それらのいわゆる「枯れた」機能を統合し、コミュニティ・サイトを容易に構築できるようにしたパッケージがXOOPSである。ダイナミックなサイト構築には早くからPHPが利用されており、XOOPS以外にもCMSはいくつも存在するが、XOOPSは中心的開発者が日本人ということもあり、マルチバイト文字への対応がしっかりしている。XOOPSの特徴や仕組みをよく理解し、基本機能を学んだ後、各教育現場での活用の可能性をよく検討し、実際にXOOPSを利用した独自のコンテンツでもって構築した学習サイトを提供することは大変面白い試みであると言える。

今回の研究会は、今後XOOPSで学習サイトを構築するための基礎的な概念が体得できた大変有意義な講演とワークショップであったので、できるならば即XOOPSというe-learning環境の構築をしたいと思ったのは筆者だけではない。ご関心のある方は、しばらくは利用できる予定の今回のワークショップのためのサイト(<http://casablanca.intl.chubu.ac.jp/workshop>)を訪問されたい。(文責 野澤和典 立命館大学)